（様式１）

視　察　報　告　書

令和５年６月３０日

鳥取市議会議長　西　村　紳　一　郎　様

鳥取市議会文教経済委員会
委員長　浅　野　博　文

本委員会は、下記のとおり委員を派遣し、行政視察（調査）を実施したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

１　期　　間	令和５年５月２３日から令和５年５月２５日まで
２　派遣先及び視察（調査）内容	＜中国四国農政局岡山県拠点＞ ○地場農産物需給拡大プロジェクトについて （主に岡山県下での取組について） ・取組の概要について ・新型コロナの影響について ・市町村・生産者・民間事業者等との連携について ・取組の成果・課題について ＜愛媛県松山市＞ ○自治体ＳＤＧｓモデル事業「“観光未来都市まつやま”推進事業」について ・選定の経過について ・選定後の取組について ・成果と課題について ＜株式会社愛研化工機＞ ○工業排水からのエネルギー回収について ＜善通寺市・琴平町・多度津町学校給食センター＞ ○学校給食センターについて ・施設の概要について ・調理について（全体の流れ、調理風景の見学） ・配送について ・衛生管理について ・食育について ・アレルギー対応について
３　派遣委員の氏名	浅野　博文、金田　靖典、中山　明保、加嶋　辰史、 米村　京子、吉野　恭介、石田憲太郎、岡田　信俊
４　委員会所見	別添のとおり
５　参加者所見	別紙のとおり

別添

中国四国農政局岡山県拠点	○地場農産物需給拡大プロジェクトについて （主に岡山県下での取組について） ・果樹のブランド化にとどまらず、地場農産物の生産力を高めること、量販店も巻き込んだ「地元産」の販路拡大、学校給食を含めた消費拡大を総合的に行う３者連携を機能させる取組など、全県的・多機能的に取り組まれていると感じた。 ・まだ数値目標や実績はなく未知数であるが、ＪＡグループ岡山、岡山県、農林水産省中国四国農政局の３者が連携協定を締結された、名前の通り「地場農産物需要拡大プロジェクト」である。意気込みを感じるものであり、かなりの実績が上がるものと推測する。今後の動向を注視し、鳥取市においても取り入れることのできる取組に関しては、積極的に取り組んでほしい。 ・地場野菜の生産・流通は、生産者から市場への出荷よりも所得向上が見られ、作業量が軽減されるメリットがあり、大いに期待される分野・プロジェクトであると思われる。 ・岡山県民は地元の食材購入の要望は持っているようだが、県内大手スーパーには県外産食材が並んでおり、地元産品は県外へ出荷されている実態があるようで、鳥取市においても、地場農産物がどれくらい消費されているのか調査し、まだまだ地消割合が少ないとすれば、様々な機会を活用して地場農産物の消費を促し、生産拡大につなげる取組が必要と感じた。 ・地元の消費者の方は地元のモノを買いたいという思いが強いということも分かった。当然、地元の人達に伝わっている、知っていると思っていたことがあまり地元の人に伝わっていなかったということも分かった。ＰＲをして選んでもらえるようにすることが大事だと気づくとともに、生産者のことも考えていかなければならない。そのバランス感覚が大事だと感じた。 ・農業現場の声を行政施策に取り入れる目的を継続して意識する組織の在り様を特に重要だと感じた。 ・地場農産物の需給拡大に向けて、民間事業者(有)漂流岡山とコラボし、岡山駅前イオンなど販売促進していた。鳥取市でも、この民間事業者(有)漂流岡山のような事業者を育てていく必要があると感じた。

愛媛県 松山市	○自治体ＳＤＧｓモデル事業「“観光未来都市まつやま”推進事業」について ・様々な事例の紹介を受ける中で、鳥取市とは人口規模は違うものの、同じ地方都市として、また鳥取も全国に誇る「鳥取砂丘」や美しい日本海、そして海産物等の食が豊富であることを考慮すると、見習うべき点、すぐにでも活用できる活動など多いと感じた。鳥取市に似合った、鳥取市らしいＳＤＧｓ推進を更に醸成すべきと強く感じた。 ・松山市の地域特性を十分に認識し、その特性にＳＤＧｓの理念を掛け合わせた行動を具体化して実践することで持続可能なまちとしていく取組に感銘した。産官学金民からなる外部組織と庁内組織の連携・協働がうまく機能してこそ形になるものだと思う。鳥取市を持続可能な魅力あるまちとするための大変参考となる取組だと感じた。 ・プラットホームとしての在り方は重要で、多くの団体と連携するための組織づくりは必要である。コロナ禍で活動は難しくなっていましたが今後の活動に期待する。市民意識の熟成に向けて、市民の意識をどう高めていくのか、その中でサポーターズクラブ参加者の増加は、大変だが必要なことと思う。今後の課題として、地域課題の解決に向けて官民連携が大いにもとめられるとあるが、本市においても重要なことではないか。 ・庁内外の連携・交流を通じ、経済・社会・環境の複合課題を同時に解決できるように総合的に取り組んでいた。具体的な各取組の説明を聞き、参考になるとともに、松山市の積極的な取組に本気度を感じた。 ・認定されて３年たつが、それ以前から取り組んできた素地を活用する模索が、行政内担当の枠を超えた一体的な取組となっていると感じた。 ・大学生を巻き込んだ取組は、すごいと感じるとともに、鳥取市の意識はまだまだ追いついてなく、松山市民の人たちがとてもうらやましく感じるほどで、衝撃を受けた。 ・今後も鳥取市の地域経済の発展と活性化に向け、さらなるブランド化やＰＲの推進をはじめとした地域資源の活用へ向かうには、従来までとは異なる計画性が必要だと強く感じた。 ・地球温暖化の影響を受ける意識の高まりにどう対策していくか。今後、影響を長く受けていく若い人たちの意識はきっとその報告に移っていくので、先取りするくらいの意識で行政を担っていきたいと思った。

株式会社 愛研化工機	○工業排水からのエネルギー回収について ・実際にプラント導入されているルナ物産（株）を訪問し、現地説明を伺って、非常に素晴らしい技術・施設だと感じた。プラント納入実績の７割が食品産業で３割が科学産業ということであるが、鳥取市においては主な対象となる大手の食品関連工場は見当たらないことから、このプラントを導入できる企業はなかなか難しいと思われる。しかし、このような技術があることを認識できたことは今後の議員活動における知見として有効なものとなった。 ・画期的なシステムであると感心した。今後、日本のみならず世界でも注目を集めるものと確信した。本市での利用も推奨したいが、このシステムにおいて汚染度の高い流入水が発生している工場や施設があるかどうかわからないところであるが、検討をお願いしたい。 ・工業排水をバイオマス資源ととらえた再生可能エネルギーに大変興味を持った。昨今海上風力エネルギーが注目されているが、環境を破壊し、多くの資金が必要である。「排水からのエネルギー回収」はまだ課題はあるが、身近なところから電力の供給を考えていく必要がある。 ・工業排水から発電するという画期的なシステムであり、鳥取市でも導入できる「場」がないか調査してみたいと感じた。 ・山間部の小さな水力発電など、鳥取らしい電力の供給を考えてほしい。今回見学したが大きな設備は必要で、今後まだまだ考えていく余地があるのではないか。 ・この事業の推進には愛媛県知事が同行するなど、行政も力を入れている。鳥取市の企業の工業排水処理事業に活用できればよいと感じた。 ・具体的な数字を明らかにしていただきながら処理タンクを拝見し、予想していたよりも臭気は薄く、素晴らしい技術であることが印象的だった。 ・一般的に環境装置というのは経済効果はないが、こうした発電による経済効果を付加することができ、併せて化石燃料を必要としていた処理を再エネに切り替えられることは一石二鳥三鳥になると感じた。

善通寺市・琴平町・多度津町学校給食センター	○学校給食センターについて ・各市町の給食センターが老朽化している共通課題があることから平成 25 年から意見交換が開始され、令和元年９月に給食提供が開始されるまで、長い時間をかけ大変な苦労があったと推測される。 ・鳥取市も第一給食センターと湖東給食センターの整備が急がれる中で、同規模のこの給食センターを視察できてよかった。コンテナ専用の洗浄消毒器も初めて知ることができた。課題として、この給食センターができる前は１市２町トータルで栄養教諭が５名配置されていたが、現在３名となって食育をはじめとした業務に大変苦労されていること、ＰＦＩの問題点としてオープンして４年になるが一度も使用していない器具・装置があるなどのお話しを伺うことができた。 ・個人的に鳥取市内の各給食センターの見学や、所長さんたちとの意見交換もおこなってきた。鳥取市の給食センターは老朽化が進み建て替えを迎えるセンターもあり、そのため視察での研究をしているのである。しかしながら鳥取市が取り入れている技術やシステム、運営や献立に関する会議等の在り方を含め、なんら鳥取市は遅れをとっていない。そのようなことが確認できた視察であり、日頃からの鳥取市内の給食センター及び給食の在り方をありがたく感じた。 ・今後の給食センター整備に関し、「どれだけ多くの実地を見るか」が大切という貴重なアドバイスを頂いた。 ・１市２町の協議会、ＰＦＩ方式による運営なので、細かい運営面では手が届きにくい点があるようだった。 ・ＰＦＩによる整備後、設計段階では発送回収のドッグシェルターを密閉する仕組みを設けているというところが、実際は隙間がある状態であった。なかなか修繕に至っていないようだが、ＰＦＩのデメリット部分かもしれない。鳥取市が今後整備を進める給食センターについて、整備手法が大きな判断材料となると感じた。 ・完成後、不具合も少しずつ出てきているように伺った。ＰＦＩだからこと完成後の修正はなかなか困難なので、建設途中によくよくチェックしておくことがまずは大事なのだと考えた。 ・見学者は現場に入れないので、プレゼン用としても複数台のカメラで現場を一元管理できるシステムは鳥取も取り入れるべきと思った。 ・調理場を見て、ユニフォームの色などを含め、人・食材・容器など交差汚染が発生しないような工夫が随所に展開され、流れのよさに繋がっていると感じた。